簿記3級 合格までの勉強法 4ステップ

コーチングで実際に使っている勉強の進め方を、4つのステップにまとめました。この順番どおりに進めれば、働きながらでも1〜2か月ほどで合格を狙えます。

まず押さえたい：簿記3級の試験の形

大問	主な出題	配点
第1問	仕訳	45点
第2問	勘定記入など（出題の幅が広い）	20点
第3問	決算	35点

合格点は70点

100点満点中70点で合格。満点を取る必要はありません。

点を稼ぐのは「仕訳」と「決算」

第1問と第3問で80点分。ここで点を取れれば合格できます。

使う参考書

TACの「みんなが欲しかった！」シリーズの3冊を前提にしています。少なすぎても多すぎても効率が落ちるので、この3冊がベストです。

教材	特徴
教科書	知識がいちばん網羅的にのっている
問題集	出やすい問題がのっている。難しさは本試験並み
予想問題集	本試験に出やすい問題や形式がのっている

「予想問題だけで受かる」といった極端なやり方は危険です。3冊それぞれに役割があります。

合格までのロードマップ

ステップ	やること	期間の目安
1	第1問 仕訳対策	約2週間
2	第3問 決算対策	約2週間
3	第2問対策	約1週間
4	直前対策（予想問題の演習と復習）	1〜3週間
合計		**約1〜2か月**

1日1時間半〜2時間（調子がいい日は3時間）勉強する場合の目安です。1日2時間なら、合計でおよそ80〜110時間になります。

4つのステップ

ステップ1　第1問 仕訳対策

約2週間（教科書1週間・問題集1週間）

やり方 教科書の第1問（仕訳）の例題と基本問題を2〜3周して完璧にします。そのあと、問題集の第1問対策を2〜3周します。

ポイント

- **いちばん大事な土台**
  配点は45点。ここが苦手だと合格はできません。難易度はそこまで高くないので、高得点を狙いたいところです。仕訳はすべての知識の基礎で、第2問を解くのにも必要になります。
- **問題集の前に、教科書を完璧に**
  基礎があいまいなまま問題集や予想問題に進んでも、効率がよくありません。家と同じで、土台がしっかりしていないと、あとから何をやっても崩れてしまいます。
- **わからないときは教科書に戻る**
  問題集でつまずいたら、必ず教科書の解説で確認しながら進めます。基礎を大事にすると、形式の違う問題にも対応できるようになります。

ステップ2　第3問 決算対策

約2週間（教科書1週間・問題集1週間）

やり方 まず教科書で決算整理仕訳を2〜3周して完璧にします（この段階では、試算表や貸借対照表の作成はまだやらなくてOK）。仕訳が完璧になったら、問題集の第3問対策を2〜3周して、本試験形式で試算表・貸借対照表などの作成にも慣れていきます。

ポイント

- **第2問より先に決算をやる**
  配点が35点と大きく、2級以上に進んでもとても大事な知識だからです。できれば満点、または9割近くを狙います。
- **まずは決算整理仕訳だけに集中**
  決算問題は、決算整理仕訳を書いてから試算表などに記入する流れです。仕訳があいまいなまま記入の練習をしても、時間がかかるわりにムダになってしまいます。
- **合否の分かれ目**
  合格する人は第3問が得意で、伸び悩む人は第3問が苦手なことが多いです。本気で受かりたいなら、ここに気合いを入れましょう。

ステップ3　第2問対策

約1週間（1日2時間ほど）

やり方 問題集の第2問対策を2周します。完璧は狙わず、どの問題も6〜7割、よければ8割取れることを目標にします。

ポイント

- **コスパよく対策する**
  第1問と第3問で80点分あるので、極端にいえば第2問がゼロでも合格点は取れます。ただ、完全に捨てるのはもったいないし、2級でも使う知識なので、時間をかけすぎずに対策します。
- **先に仕訳を完璧にしておく**
  第2問は、第1問の仕訳ができている前提で出される問題が多いです。第2問の前に、仕訳をしっかり仕上げておきましょう。

ステップ4　直前対策

1〜3週間

やり方　予想問題を本試験のつもりで解き、解き終わったら復習する。これをくり返して、十分に点が取れるようになったら受験します。予想問題の難しさは本試験とほぼ同じなので、問題なく解ければ合格の目安になります。

ポイント

- **復習は仕訳と決算を優先**
  配点の大きい第1問と第3問で点を稼げれば合格できます。時間がなければ、第2問の復習は後回しでも大丈夫です。
- **復習は必ず教科書とセットで**
  予想問題の解説だけで復習すると、知識がかたよりがちです。いちばん網羅的な教科書を手元に置いて確認すると、形式の違う問題や応用問題にも対応できるようになります。